

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 経済学研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 (研究科) |
| 中項目 | 6.2 教育課程・教育内容 |
| 小項目 | 6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 |
| 要素 | 必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院) |
| 小項目 | 6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 |
| 要素 | 学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|--|--|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 2009年4月に「本研究科運用内規」に設定し、院生には「履修心得」で公表した課程博士学位取得プロセスに基づき、博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位を取得させるように指導体制を強化する。 | →博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位申請者数、取得者数。 | B | B | B | B | B |
| 2. 受講希望院生の需要に応じて、マクロ・ミクロ計量分析の講義・演習を弾力的に「特殊講義」「特殊演習」で開講可能できるよう、大学に必要な予算措置を要求して(PC、更新も含むソフトウェア等の整備)物理的体制を確保し、後期課程へ進学する研究者養成のみならず、前期課程における高度職業人へのデータ分析の演習教育を強化する。 | →出口の需要や院生の研究テーマや将来の進路希望に応じ、大学から必要な予算措置を伴う物理的体制整備が得られれば、選択必修科目化し、そのうえでのマクロ・ミクロ計量分析の講義・演習科目開設数、受講者数。 | B | B | B | B | B |
| 3. 研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と国内外の他大学大学院生との連携教育プログラム(他大学大学院との単位互換協定の締結や現行では授業科目化されていない「経済学ワークショップ」の授業科目化)により、実質化する。エコノミストコースについては本学他研究科との連携により、カリキュラム・プログラムを段階的に再編する。 | →他大学大学院との単位互換協定の締結。「経済学ワークショップ」など「セミナー、ワークショップ」の授業単位化。 | B | B | B | B | B |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|-------------------|-----------|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|--|------------------|
| 目標1 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士課程後期課程修了と同時に博士学位を取得した者は2009年度に1名のみであるが、2009年度入学生より設定した「学位取得プロセス」に従い指導教員による指導をしている。また、経済学ワークショップや共同演習体制など、プロセスに必要な体制の整備を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 博士課程後期課程生が少ないため効果測定は難しいが、現在のところ改善点は見受けられない。ただし後期課程修了と同時に博士号を取得した者はプロセス設定後1名のみである。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 博士課程5年間で学位取得のための研究者養成コースの検討。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 目標2 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか データ分析の特別な演習教育には至っていないが、コア科目担当者のFD研修会の結果を受けて、2014年度入学生を中心としてコア科目履修者のための準備学習として外部講師によるMath.Campを開講した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か Math.Campは入学予定者だけでなく大学院在学生のほか、学部生、他研究科生の参加もあった。指導教員の指導によりコア科目の履修が必要でない者も多いため、それを考慮に入れた改善が必要である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 実務者コース、研究者コースなどのコース制の導入検討をすること。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 目標3 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2009年度に博士学位取得プロセスにて必修化した経済学ワークショップを2011年度より科目設定(2単位)して整備した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 経済学ワークショップでは、審査担当者を非常勤講師として雇用することで、指導教員とともにワークショップまでの1学期間の徹底した指導を実現できた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 博士学位取得プロセスに含まれる経済学ワークショップの継続と報告会の実施。奨励セミナーなど大学院生の要望によるセミナーを募集し活性化させること。</p> <p>その他</p> | ☆ ☆ ☆ ☆ |
| 備考 | | | ☆ |